（ 様 式 13 ）

論文審査の要旨

報告番号	総研第 420 号		学位申請者	Lai Thi Minh Hang
審査委員	主査	嶽崎俊郎	学位	博士（医学・歯学・学術）
	副査	井戸章雄	副査	於保孝彦
	副査	大脇哲洋	副査	堀内正久

A case-control study on waterpipe tobacco smoking and gastric cancer risk in Vietnam

ベトナムにおける水タバコと胃がんリスクに関する症例対照研究

ベトナムでは、特に北部の男性は水タバコを喫煙する習慣を有し、水タバコ喫煙者の割合は喫煙者全体の約 3 割を占め、紙巻きタバコ喫煙者の次に多い。ベトナムの水タバコの本体は主に竹筒で作られており、その形状・構造は中国の水タバコと似ている。一方水タバコとしては、中東諸国で主に使用されているアラビア水タバコが有名であるが、ベトナム水タバコとは、タバコの葉に火をつける際に木炭を用いる点、1 回の喫煙時間が約 1 時間と長い点（ベトナム水タバコは 5 分弱）が大きく異なる。

先行研究では、アラビア水タバコの喫煙によって、肺がん、食道がん、口腔がんの罹患リスクが高くなることが報告されているが、胃がんの罹患リスクとの関連を調べた疫学研究は少ない。また、ベトナム水タバコと胃がんの罹患リスクとの関連を検討した研究もこれまでにない。そこで本研究では、ベトナム水タバコの喫煙習慣と胃がんとの関連を明らかにすることを目的とした。

学位申請者らは、ベトナム北部において 2003-2011 年に病院患者を用いた症例・対照研究を実施した。症例は男性の新規胃がん患者 454 名、対照は年齢（±5 歳）と入院年を揃えた男性の非がん・非たばこ関連疾患の患者 628 名である。喫煙習慣を含む生活習慣や社会経済状態、家族歴などの情報は、共通の質問票を用いた面接による聞き取り調査により収集した。ベトナム水タバコの喫煙習慣による胃がんのオッズ比を条件付きロジスティック回帰モデルを用いて推定した。

その結果、本研究で以下の知見が明らかとなった。

1）年齢、教育歴、居住地、高塩分保存食や柑橘類の摂取量などの交絡要因を調整した解析結果では、ベトナム水タバコの喫煙者において胃がんのオッズ比が 1.8（95%信頼区間 1.3-2.4）と高かった。

2）水タバコのみの喫煙者に限定した解析では、オッズ比 2.7（95%信頼区間 1.2-6.5）、25 歳以下で水タバコ喫煙を開始した者ではオッズ比 3.7（95%信頼区間 1.2-11）とさらに高い値であった。

3）水タバコの喫煙回数が多いほど、また喫煙期間が長いほど、胃がんのオッズ比が高くなる傾向を示したが、統計学的に有意な結果ではなかった。

4）一方、紙巻タバコの喫煙と胃がんとの間に有意な関連は認められなかった（オッズ比 1.1、95%信頼区間 0.8-1.4）。

本研究結果は、ベトナム水タバコの喫煙によって、胃がんのオッズ比が高くなることを初めて明らかにしたものである。ベトナムの一般の人々の中では、水タバコは紙巻きタバコよりも健康被害が少ないという認識があることから、本研究結果は、同地域の健康施策・健康教育に大きく貢献するものと評価する。

よって本研究は学位論文として十分な価値を有するものと判定した。